

## 第 10 回 町田市最終処分場周辺環境保全協議会の議事要旨

開催日時：2013 年 1 月 24 日(木) 15:00～17:00

開催場所：町田リサイクル文化センター 2 階研修室

参加者：（委員）高橋 清人 [会長] 新井 堅司、深谷 修司、丸山 清吉、萩原 牧子、  
宗田 隆由

（アドバイザー）梶山 正三、関口 鉄夫

（傍聴者）5 名

（敬称略）

主な議事内容を以下に示す。

### 1. 開会

環境資源部長より、開会の挨拶。続いて、資料の確認及び説明資料 p. 24 の差し替えについての説明。

### 2. 前回議事要旨の確認

#### (1) 峠谷覆土工事内容について

峠谷覆土工事の工事内容は協議会で議論をする必要があるのではないか（アドバイザー）という意見については、後ほど「資料 2」を用いて改めて説明させていただく。以下、(2) ～ (4) についても同じである。（事務局）

#### (2) 最終処分場閉鎖について

最終処分場の閉鎖に向けた基本的な筋書きが分かる資料を作成してほしい（委員）という意見については、後ほど「資料 2」を用いて改めて説明させていただく。（事務局）

#### (3) 旧埋立地の安定化について

旧埋立地は、池の辺・峠谷とは別のスキームを考えて検討すべきである（アドバイザー）という意見については、後ほど「資料 2」を用いて改めて説明させていただく。（事務局）

#### (4) 旧埋立地の把握について

旧埋立地の規模等を特定する調査を実施する必要がある（アドバイザー）という意見については、後ほど「資料 2」を用いて改めて説明させていただく。（事務局）

#### (5) 調整池のブロック積み構造について

調整池のブロック積みの目地は最初から無かったのか（アドバイザー）という意見については、後ほど項目 4「対策工事の経過」で説明させていただく。（事務局）

#### (6) 調整池のダイオキシン類蓄積量について

堆積期間とダイオキシン類の蓄積量の関連性について評価できる調査を実施していただきたい（アドバイザー）という意見については、今年度は調整池補修工事を優先的に実施することで、調整池の浚渫は行わないため、次年度以降、浚渫工事の際にこれらの関連性について判断できるような調査計画を協議会でアドバイスをいただきながら審議していきたいと考えている。（事務局）

(7) 調整池のダイオキシン類調査方法について

現在の 3 箇所に加えて、離れた箇所において計測して貰いたい（委員）という意見については、今年度は、調整池内の 3 箇所に加え、下流域についても調査を実施した。調査結果については、後ほどモニタリング説明資料 p. 23 ページで説明させていただきます。（事務局）

(8) 協議会資料について

事前に資料に目を通すが分かり難いため、要点等のコメントを付けていただきたい（委員）という意見があった。今回、要点や問題点のコメントを追加し分かりやすい資料とするようにした。（事務局）

3. 最終処分場廃止に向けたスケジュール(案)について

「資料 2」を用いて、コンサルから最終処分場廃止に向けたスケジュールについて、説明を行った。

この議題に関する質疑事項は以下のとおり。

- ・ 今、コンサルのほうから説明があったが、池の辺、峠谷については、目標が見えたかと思う。旧埋立地については来年度に埋立範囲調査を行うが、毎回データをいただいても結果が良い方向へは転じていない。いつまでもこの状況ではいけないというご指摘をいただいたところである。来年度になるが、ここに書いてあるスケジュールを見ながら、対策工法について検討を進めて、来年度予算の中の調査をスタートしていきたいと考えている。（環境資源部長）
- ・ タイムスケジュールについては、概ね理解できた。東京都と協議中とのことだが、廃止届が提出できる前提条件、特に分析項目について具体的に示してほしい。というのは、様々な項目があると思うが、その項目と今実施中のモニタリング調査とはどの程度関連性があるのか。モニタリング調査の第一目標は、最終処分場の廃止に向け、基準を満足するようなものと考えているが、そればかりではなく、周辺住民の方が不安になっていると思うので、その項目をもう少し具体的に提示していただければ、わかりやすいと思う。（会長）
- ⇒ 今、維持管理上、分析している項目が協議会で決めた項目と清掃工場のほうで決めた項目があり、それらの項目を合わせると基本的には基準項目の不足はないと考えられる。ただし、測定期間や時期等が違い、法律上の基準項目と合致していないものもあるので、そのあたりは終了届を提出するときに法律上の項目に合わせていこうと考えている。ここで、基準項目の全てを説明するわけにはいかないが、基本的には協議会で分析しているものと同じような項目で、“地下水”、“埋立地からの発生ガス”、“地中温度”、“浸出水”である。基本的に今実施中の項目でほとんど基準を満足はしているが、頻度や一部の項目について不足がある。そのあたりは調整して、今後この協議会の分析項目とするか、維持管理で分析していくかは協議しないといけない。これらのものについて終了届を提出する平成 27 年度の段階では、法律上の項目が最低限必要になるので、調整していこうと考えている。（事務局・コンサル）
- ・ 基準項目については、様々な項目があり、まずは分析結果がある基準を下回っているということが必要なのではないかと。（会長）
- ⇒ 今の分析結果をみる限り、旧埋立地は除外するが、その他の場所では基準値を超えるようなものは出てこないと考えている。（事務局・コンサル）
- ⇒ ⇒それと安定化とはどのような繋がりがあるのか。（会長）

- ⇒ 池の辺、峠谷については、高い数値が出る項目もあるが、極端に悪い環境とは考えていない。当然、地下水や浸出水の結果をみても、基準値を超えるようなものは出てきていないので、この 2 つに関しては、ある程度安定してきていると見受けられる。(事務局・コンサル)
- ・ 閉鎖までのスケジュールは分かるが、その後、閉鎖から廃止までの間を 2 年間しかみていない。廃止になれば浸出水の処理も止めるという前提か。(梶山先生)
- ⇒ 実際のところは、工場の排水等もあるので、水処理を止めることは難しいと考えている。当然、旧埋立地についても解決しないと、水処理を止めるわけにはいかない。法律上、届出はしっかりやっていって、廃止届までは提出したいと考えている。分析自体も 2 年できっちりやめるということは考えていないので、監視しながら続けていくことになると思う。(事務局・コンサル)
- ・ 今日伺ったところによると、本処分場の水処理施設は峠谷の排水と池の辺からの排水、清掃工場排水、市民プールの排水の処理があり、法律上、建前から言えば、廃止基準を満足し、廃止届を提出すれば、その後の水処理はいらない。ところが、そう単純に割り切れない部分がある。また、浸出水であるが、廃止基準は満足していたとしても、電気伝導率や塩素イオンは通常の地下水に比べると桁違いに高い。このような状況の中でそのまま廃止して、水処理をいつでも止めることができる状況にするというのは、住民の方の感覚では納得できないのではないかと思う。通常であれば閉鎖から廃止まで 5~10 年程度をみるのが普通である。そこを踏まえ、長期的にどう考えていくのか。電気伝導率や塩素イオンがどの程度下がってれば良いのか、あるいは市民プールと清掃工場の排水を別に処理したほうが良いのではないかなどの問題が出てくる。それから、跡地利用についてだが、今の法律ではすぐに跡地利用はできない。そのことについては今ここで言う必要はないが、先ほどもそういった話が出たので少し気になったところである。今の話だと、一応廃止届は提出して(要するに廃止確認を受けておいて)、実際は管理を続けていくつもりなのか。(梶山先生)
- ⇒ 基本的には廃止届が提出できて受理されたとしても、旧埋立地の問題や排水処理の問題も残っているので、すぐに水処理を全部止めてしまうということはないと考える。(事務局・コンサル)
- ・ 説明をみなさんにしなければいけないので、周辺住民に対する説明責任を考えると、具体的に都に提出する届出は何で、それに記載すべき項目と基準値は何でというようなことを提示して、町田市としての考え方を示していただきたい。この資料を見て感じたが、要は 2 年間で終わらせようというのは、早く跡地を使いたいということではないか。このような態度で跡地利用を考えているのであれば、当然反対する。私が聞いている一般的な常識では最低 5 年である。このように何かをやりたいからといって、勝手にスキーム作ってはだめだと思う。(委員)
- ⇒ 今ここに提示しているスケジュールは、町田市とコンサルで話をしている内容であるので、正式な場に提示しているものではない。状況に応じて見直しはできるので、協議会等を通じてご意見等いただいて更新していこうと考えている。(事務局・コンサル)
- ⇒ このスケジュールはあくまで案であり、このスケジュールでいこうというわけではない。このようなスケジュールもあるということで、先ほども話に出たが、2 年ではなく、5 年となればその期間についても審議会の中で判断いただければと思う。(事務局)
- ・ データを見る限りは、廃止基準という国の甘い基準を別にして、あまり改善されていない。測定頻度が少ないので、不明な部分が多く見られるが、目に見える形で良くなっているという部分がデータの的に見られない。まず気になるのが、覆土をしたのに浸出水量がどの程度減少したのかというデータがない。このデータは

- 覆土の効果をみるのに大事なデータだと思うので、なんらかの形で提示していただきたい。(梶山先生)
- ⇒ 覆土の効果についてのデータは、池の辺に流量計を設置しており、昨年度から通年で計測しているので、次回協議会で今年度分について取りまとめたものを提示できると思う。因みに前は、覆土の効果について判断できないデータが得られたので、そのあたりは次回の協議会で議論いただければと思う。(事務局・コンサル)
- ・あの流量測定で得られるデータは正しいのか。正しいのかというのは、流量測定は非常に誤差が出やすいものなので、電磁流量計のようにチェックが必要なはずである。チェックが十分できているというのであれば良いが、なんらかの形でチェックしていただきたい。(梶山先生)
- ⇒ 月 1 回データを回収する時に、水深を手で確認しており、その数値と器械で表示されている数値に違いがないかということについては自主的に管理している。その管理で誤差は出ていないことは確認している。(事務局・コンサル)
- ⇒ いわゆる絶対流量という形でのチェックではないか。(梶山先生)
- ⇒ そうではない。(事務局・コンサル)
- ・浸出水量について、水の出入りを管理できるようになると、浸出水の水質面に着目できる。今日この資料を見ると、峠谷で雨が降っていない 1 ヶ月間に峠谷のボーリング孔でおよそ 1m 水位が低下している。このようなかたちで徐々に動きが掴めてきているが、まだ天端の方から側溝に沿って浸透していく箇所については、アバウトになっている。忘れてしまっていて聞きたいのだが、峠谷だけの流量測定はないか。(関口先生)
- ⇒ ない。(事務局・コンサル)
- ・先ほどの議論であるが、水質の基準をどこに設定するかについては、町田市で一定の合意を持っておく必要がある。というのは、地下水は震災時のライフラインになるからである。阪神・淡路大震災のときは、住民の多くが地下水を使おうとしたが、化学物質の汚染で使えなかったという事実がある。逆に、中越大地震の時は、地下水が汚染されていなかったため、ライフラインが切れても生活用水については何の問題にもならなかった。このような状況が考えられるので、使えないのなら使えないという周知をしっかりとしておくべきである。地下水を生活用水として考えるのであれば、有害物質の基準は排水基準ではなく、水道水質基準になる。そういうことについても、電気伝導率が高いなどの悪影響が考えられる場合は、地下水としての利用を禁止させる、長期にわたって監視し続けていく体制をとるなど、必ず物に残しておかないといけない。ただ埋めて、後は知らないという結果になるのが一番良くないので、考えながらやったほうが良いのではないかと。廃止についても同じ考えである。(関口先生)
  - ・いずれにしてももう少し具体的に、届出を提出する前提はこのような条件があり、様々な項目があると思うが、それらの項目についてどのような基準があり、その基準に対して現状で満足しているのであればそれでよいが、満足していないのであればどの程度の値になれば評価できるのかという基準を持って、どの状態で届出を提出するという計画を出していただきたい。おそらく、基準自体はあるのだろうが、その基準が我々住民にとって安心できるかは別問題なので、届出を提出するしないの前に、議論させてもらえれば非常に良いと思う。監視期間で何がわるのかということをはっきりさせないと、この設定期間にどのような意味があるのかよくわからない。内容をもう少し具体的に出してもらえば、オープンな話になると思う。(会長)
- ⇒ 先ほどの発言で市が処分場跡地を使いたいということについては、まったく白紙の状態である。きちんと保全協議会の中で議論いただいて適切な時期にきちんと

- した廃止あるいは閉鎖の形をとる。これはあくまでも「案」で当然協議会の中で議論、アドバイスをいただきながら決めていきたい。(環境資源部長)
- ⇒ 日の出を見学させていただいた際、まだ廃止はしていないようだが、サッカー場のような運動場として利用したいと市の方が話していた。この周辺では非常に運動場などが不足しており、このような要望が非常に強い。跡地利用については総合的に考えて、閉鎖に向かった後、有効にどういう形で利用できるのかと一緒に議論していただくと非常に良いのではないかと思う。(会長)
- ・ スケジュールに関して、後はよろしいか。(会長)
  - ・ 大事なことなので確認するが、この会に参加する最大の理由はダイオキシンである。ダイオキシンの出入りがどのようになっているのか今の段階ではまだわからない。最初は工事をして全部止めてしまえば、出てくるところがわかるはずだということだったが、結果的にはいまだに分かっていない。まだ分からないという状況で、先ほどのスケジュールの話はありえない。要するに、日の出のように何年か経過したらデータが例えば70度だったものが50度になって、何十度になったという具体的なデータがあって、議論すべきである。現状では、明らかにダイオキシンがどこから出てきているのかが分からない段階であるのに、閉鎖の話が出てくると自体おかしい。だからまず周辺住民の安全を担保するのであれば、ダイオキシンの問題をきちんとつめてから、どこに原因があってどのように解決すべきかの筋道を立ててからの議論になるのではないか。忘れてもらっては困るが、非常に高濃度のダイオキシンが検出されたということがベースである。ここからは私の考えだが、ダイオキシンが大量に存在しているこんな危ない場所にサッカー場なんてつくれるわけではないと思っている。(委員)
- ⇒ 法律上は廃止して、児童公園として跡地利用している処分場の話だが、短い芝が生えたところに小さなガス抜き管が点々とあって、今も子どもを連れてお母さんたちが利用している。つまり、この処分場ではガスが出ているからガス抜き管を作っている。廃止後、跡地利用できるという点の議論については、きちんとした基準を持って(全然使えないというわけではなく)具体的に詳細な条件を町田市から住民にきちんと説明してほしい。特に水質に関して、地下水水質を満足しているからといって、そのまま放置していれば、震災の時に必ず使う人がでてくる。そのような状況になれば、慌てて使ってはいけなくて周知しなければいけない事態になる。地下水の使い方については厳しい基準を持ちながら、市民によく説明していただきたい。(関口先生)
- ⇒ 日の出の話が出たので少し事例についてお話するが、私は日の出の弁護団長を18年間やっており、実際に運動会などですでに使われているため、気持ちが悪くなった、子どもが倒れたということは稀に聞く。だが、そのような情報について、地元18の自治会のうち2つの自治会は周辺住民にも一切情報を出さず、独占的に事業組合から情報をもらい、他の自治会と対立している。このような深刻な状況が地元を分断している。これは実際にある事実であり、使って良いか悪いかは絶対に安易に考えてはいけない。処分場跡地を国の基準で使っていたところで、旧環境庁の時代から様々な問題が後を絶たない。だから、厳しくくらい厳しい態度で臨まないといけない。(梶山先生)
- ⇒ この議論は非常に大事な議論だと思うので、別に早すぎることはない。内容について、もう少し時間をかけて議論できるようなベースを最初に出してもらいたい。たとえば、ダイオキシンの件であれば、国の基準とはどのようなものでその基準で我々は納得できるのかできないのか、そのような問題をどのようにチェックして解決していくべきなのか。このようなことが、各項目できちんと見えるような形で今から提示してみんなで議論し、国の基準で安心できるのかどうかということも含めて、やっていけたらいいと思う。この点については、次回以降お願いし

たい。(会長)

#### 4. 報告・協議事項

##### (1) 最終処分場工事経過について

- ・ 峠谷コルゲートU字側溝の補修修繕を実施した。前回の協議会後の9月下旬に峠谷埋立地仮設コルゲートU字側溝が約40mにわたり雨水で浮き上がってしまう状態が起きた。大量の雨水が流れてきたのが原因ではないかと思われる。以前も同じ箇所と同様のことが起きたため対策方法として、今回は側溝の側面を5mおきに長ネジで止めた。また、側溝の横に約10cmの四角い穴を下流部と中央部2箇所に空けた。これにより側溝の外側に流れ込んだ雨水をまた側溝に戻すことができる。10月上旬に補修が終了して、これまでの間、何度か降雨量の多い時期もあったが現在まで特に問題は見られていない。これからも注意して観察したい。(事務局)
  - ・ 防草シート設置工事だが、10月末に契約、11月中旬に工事を開始して現在に至っている。絶壁や法面勾配の大きい箇所を中心に崩落防止の金網(菱形金網)を施工した。工事箇所全体の1/3程度がこの金網で覆われており、その上から防草シートを被せ、25cmのアンカーピンで抑えている。先日の雪の影響で工事が少し遅れているが、1月31日には完了する予定である。(事務局)
  - ・ 建設部に依頼している調整池の工事予定についてだが、今回の工事では、崩落したブロックの他に張石の天張り、側溝を設置する予定である。調整池の上のほうから流れてきた雨水などのブロック下への浸水を防止するのが可能と考えている。当初の図面を見ると、目地部分についても同じ工事で施工していることから、調整池のブロック積みの目地が最初からなかったということは考えられないということが分かった。調整池工事が予定になっている理由については、11月1回目、12月2回目の入札を実施したが、ともに入札不調で契約できなかったためである。明日3回目の開札の予定であるが、契約できなかった場合は工期的に難しいことから、工事は中止せざるを得ないという状態になった。(事務局)
- ⇒中止というのはどういうことか。(会長)
- ⇒今年度は中止ということである。来年度は予算の関係もあるので今の段階ではなんとも言えない。(事務局)
- ・ 池の底から漏れているとすればその漏れている水は浸出水と一緒になるような構造になっているのか。漏れた水は浄水場を通り越してどこかへ流れてしまっている可能性もあるのか。また、何のために補修するのか。(会長)
- ⇒現状のままではブルーシート部分から雨水などが浸透し崩落拡大の危険性があるため緊急的におこなう。(事務局)
- ⇒補修するのはわかるが、重要なことは、池の底が抜けているのであれば、その水はどこへ流れてしまうのかということ。(会長)
- ⇒たぶん旧地形の沢の溝のようなところを流れながら、周りの地面に浸透していく状態であると思う。そもそも調整池から水が抜けないようにするというのは、浚渫土砂からのダイオキシン類、水質からも様々な物質が検出された理由であり、それらの物質がどこから進入し、どこへ漏れているかということを究明することが問題になっているわけである。今見せていただいた資料はすごくわかりやすいと思うが、ページをつけていただきたい。予算がつかないということや、応札がなかったということは仕方のないのだが、背後からの水が徐々に広がっていくことが問題で、その水をコントロールするのは楽なので、それについては徹底してほしいと思う。調整池の問題はできるだけ急いでいただきたい。(関口先生)- ・ いくつか疑問がある。先ほどの目地の図面は法面だけであるが、底面はどうか。今日見た限りでは上の方には目地があった。後で目地入れをしたかどうかは分からないが、下の方には目地が入っていなかったということがひとつ。会長か

ら話があったが、漏れた水はどこへいくのかということについて。実はあの調整池は水が漏れるだけではなく、上からも入ってくることがあり得る。通常の管理型処分場の防災調整池の考え方であれば、遮水工がちゃんとしていることが前提で、漏れてもいいという考え方である。ただ町田市の場合、明らかに遮水工が機能していないので、悪い物質が処分場を抜けてまた防災調整池に入ってきてしまう可能性がある。このように考えるとあの調整池は底面も含めて遮断しなければいけない調整池ではないかと私は思っている。そう考えると崩落箇所だけの補修でいいのかと、そうでないとダイオキシン類やその他の焼却灰などのごみ由来のものが、結局どこへいくのかわからない。(梶山先生)

- ⇒ そのへんも含めて調査したい。(事務局)
- ・ 工事の遅れで心配なことがある。今度調整池の土砂を浚渫する時に、土砂に堆積したダイオキシン類や重金属類が問題になると思う。町田市の場合、悪い物質が処分場の側面から出ていく可能性があり、その濃度も高いので、調整池側面の目地から侵入しているか底盤から侵入しているか、いろいろなパターンが考えられる。あるいは処分場に雨が降った際、オーバーフローして浸入し、土砂に含まれるダイオキシン類の濃度を高くしている可能性もある。このようなことが十分整理されてきたので、できるだけ早く調整池の土砂の汚れた原因を解明するためにも予算付けは急いでいただきたいと思う。(関口先生)
- ⇒ 現在分かっていることであるが、底面部に関しては土壌である。当時は遮水機能を持たせるために粘土などを入れたかもしれないが、今見ると遮水性のあるようなものではない。浚渫した時に水位を下げると、底面部より湧水がある。このことを考慮すると、地下水が高いところに調整池を掘ったということが現実で把握しているところである。(事務局・コンサル)
- ⇒ 下を埋めて造成したということか。(梶山先生)
- ⇒ 当時どのような施工をされたかは不明だが、土壌であるのでそこに粘土を混ぜて遮水性を高めた可能性はあるが、今みるとそれは分からない状態である。(事務局・コンサル)
- ⇒ あの調整池の立地についてだが、底を張ってしまうと調整池自体が浮き上がってしまうような場所に造成している。解決できない問題を議論しても仕方が無いので、違う解決策をみつけないと、同じことを繰り返してしまう。入札が通るか通らないかは別として、私たち住民にとってみれば堆積したダイオキシンは非常に気になるので、とにかくダイオキシンの出入りについての解明は早くできるようにしてもらいたい。少し考え方を变えて、専門家の方の意見を聞いて、提案していただければありがたいと思う。(委員)
- ⇒ 今回の工事ではとりあえず、法面が崩壊した箇所の補修工事と理解していただければと思う。まずはこの工事を進めないで水の抜け出しが広がり、そのまま放置すればさらに壊れてしまう。とりあえず渇水期中の工事を考え、これ以上崩壊しないようにブルーシートで覆っている状態である。時期が時期なのでおそらく今年度は難しいと思われる。その辺りは調整するが、今の状態で梅雨時を迎えるのは心配なので、できる限り早く、できるところからやりたい。また、6月頃になると蓮田の水を供給する時期になるので調整しながら、適切な時期に実施したい。ダイオキシンの問題もあるので、補修工事をしながらもう一度整理して、次回協議会で検討していければと思う。(環境資源部長)
- ⇒ 防災調整池であれば別に水漏れしてもいいというのが基本的な設計上の考え方であるが、この処分場の場合、底から漏れてしまう。確かにいくら塞いでみても無駄なので、浸出水をできるだけ減らして下に漏れる量を少なくするということが大事かと思う。多分それくらいしか当面の対策はないだろうと思う。防災調整池をいくらいじっても、ダイオキシンの流出は終わらない。(梶山先生)

⇒ 非常に難しい問題だが、底が抜けて水が湧き出していることを前提にどうするのか、湧き出している水に PCB とか重金属がどの程度入っているのか、その辺りも含めてもう少し時間をかけて考えていただきたい。(会長)

## (2) 調査概要・モニタリング調査結果等について

- ・ ガス量の定量下限値についてこの下限値であれば、温度にもよるが毎秒30程度である。どのような方法で測っているのか。それと関連して伺いたいのは、p.29の湿り排出ガス量のデータのうち、平成24年2月17日の測定結果をみると湿り排出ガス量が非常に多い。その後、定量下限値未満で劇的に量が違うのはどうしてか。平成24年2月17日の測定結果を見る限りでは大量のガス排出があるが、これがなぜおちたのか。(梶山先生)
- ⇒ まずガスの測定方法は、石鹼膜流量計を用いた測定方法である。(事務局・コンサル)
- ⇒ 定量下限値はそんなに高いのか。(梶山先生)
- ⇒ そのあたりは確認させていただきたい。(事務局・コンサル)
- ⇒ 旧埋立地流量について、その前の平成23年11月2日もガス量多いにもかかわらず、前後は0.1未満である。このようなことは普通考えにくいがどうか。(梶山先生)
- ⇒ そのあたりに関しての理由は不明である。確かに値がまったく違うが、どちらも定法に則って測定しているのでどちらも正しいと考えている。ただ、平成23年度の2回は異常な値になっているかと思う。(事務局・コンサル)
- ⇒ ボーリングをして、深度別にガス発生量をみていくと、キャップロックの存在がわかる。ガス排出を止めている地層、あるいはなんらかの層があって、その下にガスが溜まっている部分を探すために、掘りながらガス発生量を測定する。仮に平成23年度の二つのデータが本当のガス発生量を表しているのであればかなり忌々しき問題で、状況が変わるとガスが突然噴出してくるような可能性もないわけじゃない。このデータをみるとこのまま放っておいていいのかと私は思う。(梶山先生)
- ⇒ 平成23年度に、ガスの測定時間が短いからこのような結果になるのではないかとご指摘いただいたと思う。その後、時間を長くして計測しても変化がなかったように記憶している。今資料がないので、もう一度確認する。(事務局・コンサル)
- ⇒ ガスの採り方について、ボーリング孔にケーシングが入っていると思うが、それをキャップで塞ぐとガス圧はどんどん高まっていく状態であるか。(梶山先生)
- ⇒ ガス圧を毎回測定していないので把握はできていないが、出たり出なかったりを繰り返すような状態だったと記憶している。このことを考慮すると、ガスが噴出している時間を優先的に採取してしまったのではないかと考えている。(事務局・コンサル)
- ⇒ 逆にいうと間欠的にガスが出ているということか。(梶山先生)
- ⇒ その時はそういう気配があった。(事務局・コンサル)
- ⇒ ある程度の時間をかけて平均化しないと、データがその度にずれて後でも評価できない。(梶山先生)
- ⇒ 採集時間を延ばしてみたが、あまり数字に変化がなかったという結果だったと思う。そのあたりはもう一度確認してみる。(事務局・コンサル)
- ⇒ 平成23年に峠谷のほうの覆土工事と関係していたのではなかったかと思うがどうか。要するに峠谷をキャップしてしまったからガス圧が上がって、峠谷の方に出ていたものが覆土をしたので、出てこなくなった。そのためにガスの行き場がなくなってここへ出ているのではないか。私が調べた範囲では3年経ってから噴出した事例がある。あまり神経質になっても仕方ないが、ガスが無くなるわけではないので、溜まっているというのはあまりいいことではない。あの時いくつか検討しても可能性があるのは覆土工事の影響ではないかということで、それを少し頭

- に入れておいていただけるとありがたい。(委員)
- ⇒ この旧埋立地に関しては、完全に悪い状態にあるという認識がある、ガスがこれだけ出ている状況では、甘いと言われている法的な基準も満足しない状態である。旧埋立地の調査はまだ始めたばかりなので、今後データを蓄積して良い方向にしたいと考えている。(事務局・コンサル)
- ・ 東京都の年平均濃度というのはどのように出しているのか。どのような場所での程度の頻度で測定しているのか。(会長)
- ⇒ 東京都の一般局、自排局というのは、高さや位置などの情報をインターネットで公開しているが、適切な場所で測定していないものもある。自排局、一般局と名前はついていても、位置がとても適切でない。そのため、一般局だが自排局に近い結果であったり、逆の場合もある。そういう意味では、自動車排ガスの影響を強く受けているかいないかというのは一概に言えない。一概に言えるところもあるが言えないところもあり、評価も難しい話である。(梶山先生)
- ⇒ 難しい話かもしれないが、この数値が一般的に生活していく上で、非常に高い値なのか、住宅地の数値と一緒に安心していいのかを知りたい。これは周辺住民から聞かれる。(会長)
- ⇒ 東京都の一般局、自排局は環境基準を満足していないものが相当あるので、そういう意味ではベンゼンだけでは何ともいえない。そういうレベルの話で、特に高くはないという話である。(梶山先生)
- ⇒ その辺りはもう少し説明できるものはないか。(会長)
- ⇒ 健康に影響を与えるものはベンゼンだけではないので、これだけでは問題の有無についての回答は難しいところである。今ベンゼンだけを選んでるのは、処分場から出ているのはベンゼンが特に高いからである。一般局と比較してもベンゼン濃度が高くないということは、処分場の影響は非常に小さいといえるのではないか。(事務局・コンサル)
- ⇒ 比較した対象を聞いている。自動車交通量の多い場所と比較しているのか、それともそうでないのか。比較の対象が難しいとしても、きちんとした説明がほしい。(会長)
- ⇒ 一般局、自排局の実際の設置場所については、かなりランダムに選ばれている。自排局は自動車交通量の影響を受けるようなところを選ぼうとしているが、実際には場所がないため、高い建物の屋上につけることもあるので自排局と呼ぶにふさわしいかどうかかわからないものが多く存在する。逆に言えば、特に高いところを選んでるわけでもなく、特に低いところを選んでるわけでもない。平均するとこの値であるというだけのことである。(梶山先生)
- ⇒ 難しい問題であるというのはわかったが、一般局とはどのような場所に設置してあり、そこと比べて同じであるという話ができるのかできないかくらいは少し調べてほしい。(会長)
- ⇒ 調べておく。(事務局・コンサル)
- ・ 調整池の分析結果について、前の浚渫から期間はどれだけ経っているのか。(梶山先生)
- ⇒ 平成24年3月に浚渫工事をして、9ヶ月程度経過している。(事務局・コンサル)
- ⇒ 期間のわりには結構出ていると思うが。(梶山先生)
- ⇒ 採取場所が静水池の下流域であるので、こちらは逆に浚渫していない。そのため、単純に浚渫後の比較がいいか悪いかという問題はある。(事務局・コンサル)
- ⇒ 浚渫後の期間が長ければ長いほど、ダイオキシンが多分高くなってくるはずである。次回はいつ分析予定か。(梶山先生)
- ⇒ 12月に実施しているが、今回はデータの記載がまだ間に合っていない。(事務局・コンサル)

- ・ もう一つ気になるのが、採取試料の粒径が小さい場合と大きい場合で、同じ場所で採取しても結果が違ってくる。ダイオキシン類の影響を見るならできるだけシルト質に近い（具体的にいうとねっとりした部分）を採らないと、いくらダイオキシンが溜まっていたとしても全然でてこない。採取試料の性状については同時に記録しておいてほしい。（梶山先生）
- ・ もう一点、バイオアッセイの話だが、サルモネラ菌を使ったエイムス試験だったか、大腸菌を使ったエイムス試験だったか。（梶山先生）
- ⇒ 過去では載せていたので、調べればわかる。（事務局・コンサル）
- ⇒ バイオアッセイは私が言い出したことで、止めたいという話が出て、気になっている。簡単に言うとバイオアッセイも多様であり、このエイムステストでは陰性だったが、他の方法でやれば陽性というようなものもたくさんある。その点、来年度廃止するかは別にして、もう一度私自身も調べてみるが、検討していただきたい。（梶山先生）
- ・ もう一点、地下水のSSが高い観測孔があるが、年1回の測定であるため今回は測っていないと思う。今回のデータにSSはないか。（梶山先生）
- ⇒ p.12のMB No.9であるが、8月に測った時SSが24、その前の年が30、その前の年が24、その前の年が180とSSが大変高い。今回は測っていないが、このSSが1回というのは、何か原因として思い当たるものがあるか。（梶山先生）
- ⇒ 明確には分からない。（事務局・コンサル）
- ・ この場合の重金属、例えば鉛を測るとき、ろ過しないで測っているのか。（梶山先生）
- ⇒ 近年測定したものはろ過せずに測っている。過去においてはろ過した場合とろ過してない場合で、平成22年12月以前については2パターンやっている。（事務局・コンサル）
- ⇒ 今回はろ過していないものか。（梶山先生）
- ⇒ あまり大きく差がなかったため、基本的にはろ過していないものだけに絞らせていただいている。（事務局・コンサル）
- ⇒ わかった。地下水は本来SSなど高いわけないので、よくサンプリングの方法が問題になる。何回か水の入れ替えをして、データを全部取り直したという調査事例もある。このSSがなぜ高いのかということの原因究明をしっかりとっていただきたい。（梶山先生）
- ・ 来年度の作業の中で、埋立地の調査は考えていないのか。（委員）
- ⇒ 埋立地内の廃棄物をということか。基本的に廃棄物に手を加えることは考えていない。（事務局・コンサル）
- ⇒ 何年間かデータを見てきたが、理論どおりに動いている気がせず、変化も見られない。多少乱暴だが、埋立地の中を掘り返して、中の廃棄物の状態を見てほしい。（委員）
- ⇒ この検討会が始まる前に峠谷だと思うが、トレンチ調査を実施しており、その写真や映像は多分、町田市とコンサルが持っている。まずその情報をきちんと提示すべきである。無ければ私は丁寧に保存してあるので、次回の委員会までに言ういただければと思う。（関口先生）
- ⇒ 最初にトレンチ調査をやったが、あれで十分かどうかについては私も疑問がある。例えば、九州のある安定型処分場では、下層地盤までボーリングを何箇所も実施し、深度別にごみの分析と発生ガスの分析を行った。だいたい20箇所程度であったがそれぐらいやるとかなり徹底的にわかる。ただ、お金の問題もあるので、トレンチ調査だけで十分かどうかについては私自身も疑問は持っている。確かにあれはあれでひとつの大事なデータである。（梶山先生）
- ⇒ その時私も中に入ったが、場所によって違うと感じた。トレンチ調査は1箇所だ

けでいいのか、深さは足りているのか、もっと下のほうはどうなっているか、その辺りのデータはないと思う。(関口先生)

- ⇒ 池の辺と峠谷のボーリングNo.2の箇所は時期によって埋立物がまったく違う。旧埋立地は古い時代のものであり、プラスチックや汚泥、焼却灰など様々なものを埋め立てている場所であり、旧埋立地がなかなか安定しないこととも関係があるが、一度開いてみる必要があるかもしれないと考えている。十分な映像は町田市やコンサルが持っていると思うので、それをみなさんに見せていただければと思う。(関口先生)
- とにかくわからないことが多すぎる。分析結果も問題がないわけではない。ある仮説があって、その仮説どおりの分析結果になっているように思えない。例えば、旧埋立地が今のままの状態に対策をしなければ地下水に悪い物質が流れるだろう、そうすると峠谷の数値にも影響を及ぼすだろう、一方では、池の辺は焼却灰を埋め立てているからダイオキシンが残存し、徐々に外に出てきているだろう。このような仮説があって、その仮説に対してやることがあるのかどうかという観点で見えていかないといけない。個々の数値だけで議論をしても前へ進まないような気がする。(会長)
- ⇒ 今、3年前とどこが変わったかと考えてみると、現状のデータはあまり変化がないのではないかとということもある。旧埋立地の問題も変わらないが、来年度に予算を確保できそうなので、ボーリング調査をしながら範囲を確定して、どう対応したらいいのか、どのような方法で安定化させていくかかということの検討を来年もしていく。できる限りのことをやって周辺の方への安心感を与えられるような内容をやっていきたい。(環境資源部長)

## 5. その他

次回は3月末を予定。

## 6. 閉会

以上